

裏磐梯エナガの会 探鳥会報告2012

【目的】 野鳥状況について調査する

【調査地域】 裏磐梯・松原湖東側（レンゲ・中瀬沼・レイクウッド・くるみの森）

【結果・考察】

去年の3月下旬には北帰行の途中に秋元湖に20つがい位のコアイサを確認出来ました。裏磐梯ではこれだけの数を見る事が出来たのは我々が記録している中では初めてであった。時間をみて足繁く通った成果でもあった。

夏鳥の渡りは例年通り4月後半から始まり5月の連休にはたくさんの鳥が見る事が出来ました。連休あけは寒かったので夏鳥達は体をふくらませて寒さに耐えており、あまり動き回らずにいたので容易に観察する事が出来ました。また、子育ても例年の繁殖パターンからみると数日から1週間程度の遅れが見られました。

裏磐梯に4月中頃やってくるオオジシギも例年並みの個体数が見られて子育てを行っていた。数年使っていたスイングポストが雪のためわずか2、30cm折れたせいでもこの年はこれを使用しなかった。オオジシギにとってはとても大きな問題の様であった。

例年5月20日前後に初確認のカッコウは、1週間程度遅れ飛来数も今までにない少なさであった。裏磐梯の環境はそれ程変わっていないので越冬地の環境の問題であろうかと思いました。

ホトトギスはほぼ例年並みと思われる。

ノジコは順調な繁殖を示し少し増えている様である。

アカショウビンは裏磐梯ではここ数年順調に繁殖し新しい世代も親になって戻って来ている様である。バーダーの過熱する鳥なので繁殖地を保護しながら見守っています。

毎年危惧しているコヨシキリに関しては数年のうちには裏磐梯で確認出来なくなる可能性があると思われる。

ヨタカ、クイナ、バンなどは裏磐梯ではここ数年、鳴き声も姿もみられなくなった。

冬鳥のわたりは昨年と違いかなり早い渡りになった。マヒワ、アトリ、ツグミなどは10月中頃から見る事が出来た。9月中頃から10月中頃に裏磐梯を通過するエゾビタキが好むミズキの実が少なかったため休息していく姿も見られなかった。木の実の出来具合からして今年の冬鳥の飛来はかなり減少する予想が出来る。

【概要】

(1) 実施期日

第1回	平成24年 3月 1日	第2回	平成24年 4月10日
第3回	平成24年 5月 8日	第4回	平成24年 5月30日
第5回	平成24年 9月11日	第6回	平成24年10月 4日
第7回	平成25年 1月10日		

(2) 調査者

裏磐梯エナガの会